

## 平尾台～第一回ハイキング読図講習会～

【報告者】I藤

【日時】2018年4月22日（日）

【天候】晴れ 気温 25℃

【参加者】H田（CL）、Dr、K崎、A屋、T田、T・K、T・M、A・I、N井、I藤

### 《コースタイム》

井出浦浄水場駐車場 8：50ー井出浦洞 9：40ーピーク 326m付近（竹藪） 10：20ー大平山 587m 11：30ー搭ヶ峰山頂 12：25ー搭ヶ峰展望台 12：35ー小穴 13：25ーキス岩 14：00ー深窪 14：10ー吹上峠 14：35ー谷筋を下る（竹藪） 15：20ー駐車場 15：40

### 《 報 告 》

平尾台については、2017年に発行された専門誌に魅了され、今までカルスト台地という短絡的な発想しかなかった私でした。その専門誌には花園をテーマに掲載されていて、ミーハーながらも、子どもと野草を探し求め、絶滅危惧種の「翁草」を見つけた時の感動は、今でも忘れられない思い出となっています。しかし、今回三度目の平尾台でも、さらなる新たな魅力を知り、楽しい山行を終えることが出来ました。

これまで私は、平尾台は茶ヶ床園地から、一般ルートしか歩いたことがありません。今回は、国道322号線ルート沿いにある「けんちゃんの村」の駐車場に一旦集合し、井出浦浄水場からスタートしました。浄水場からは、搭ヶ峰や太平山が見えます。まず初めのキーワード「井出浦洞」「バクチの木」・・・はてさて??30分程で到着したバクチの木は、博打に負けて衣を剥がれるのに例えたことからの由来で、はげ落ちた樹皮を持っていると幸せになるという。樹木にも色々な伝説があるようですね・・・。

しかし、注意をしておかないと、まだ付いている皮を剥がして持って帰ると、自分の身ぐるみがはがされてしまうようです！

さてここからが、読図のスタートです。コンパスで方向を定めて、標高を合わせて、藪の中に突入します。その日の私はというと、ボッカトレと欲張りセットで参加し、竹林から急登に入ると、息絶え絶えとなってしまう、一部の方にザック内のウェイトを分散させてもらいました。また、途中で進路を目指す尾根を間違ってしまったのですが、気を取り直しつつも、自分の過去を振り返る久々に良い機会となりました。

うっそうとした藪を抜けると、羊群原のダイナミックな景色が広がり、清々しきでいっぱいとなりました。広がる草原を眺めながら、大休止です。次は、搭ヶ峰にむけて、稜線歩きです。搭ヶ峰の道標からは、眺望はありませんでしたが、20m程先の展望台は、これまた絶好の景色でした。皿倉山から福智山、香春岳、竜ヶ鼻などの北九州の山々が一望出来ます！

展望台では、気が付けば予定の時間を過ぎてしまっていたようで、話し合った結果、四方台へのコースは割愛することにしました。小穴（といいながら、巨大なドリーネ）を通り過ぎながら、登山道を南下します。ドリーネのへこんだ部分には、数千年？数億年？と思われる石灰岩があり、底にも樹木が生



太平山から羊群原を眺める



青空のもと、登山道にて

えていて、珍しい穴に、深い歳月を感じておりました。(地球の歴史は読み解けません・・・) 羊の群れに囲まれながら、ヤブレガサ、ノコンギク、〇〇リンドウ? (むらさき色) など様々な野草に出会い、きれいな登山道を歩き、キス岩で小休止です。小休止の後は、深窪に立ち寄り、吹上峠に到着です。しかしここがゴールではありません。吹上峠から、車道を下り、浄水場へ向かって、再び藪に入ります。藪といってもセメント会社の私有地が存在するらしく、立ち入り禁止だったかもしれませんが、10名の踏

み跡をしっかりと残して、トゲやらが刺さったり、痛かったりで、今年の読図ハイキングも無事に終了しました。

反省点として、当日は25℃という、真夏並みの天気。そして、平尾台特有の熱射が当たりやすいためか、歩いている途中で、炭水化物が受け付けないことが次第に分かりました。大事には至りませんでした。低山でも安易に考えてはいけなと改めて思いました。クエン酸(梅干し) やスポーツゼリーを頂き、最終的なエネルギーのもとになったことは、間違いありません。皆さま、お世話になりました。どうもありがとうございました!

《概念図あるいはルート図》



巨大ドリーネ